

なめがた未来のまちづくり協議会委員 意見提出シートとりまとめ <<0706>>

プロジェクト	基本目標 実現シートNo.	基本目標	担当課	委員意見
働く場の拡大プロジェクト	1.01.1	基幹産業である農業を盛り上げる	農林水産課	<p>【橋本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業販売額の増加は市民としても非常に嬉しいです。 ・農業就業率UPには移住とセットで施策を考えると効果的かと考えます。コロナ禍の現状、またコロナ終息後も、この緊急事態の経験から地方移住、地方での暮らしを考えていく人は多いのではないのでしょうか。 ・行方市の空き家で暮らしつつ、耕作放棄地を活用し、農家の方の畑をはじめは手伝いながら農業を一から教えてもらい、徐々に地方暮らしに慣れてもらうのはどうでしょうか？ ・また、市場に出せるような立派な作物を作れるようになるまでは時間がかかるかと思いますが、形が悪い・傷がついたというような農作物でも、ネットで販売することができ、人気だそうです。 ・東京FM『スカロケ移住推進部』・・・たまに時間が合うと帰宅時ラジオで聞いています。非常にインパクトがあります。 https://www.tfm.co.jp/sky/iju/ <p>【山口委員】</p> <p>「働く場の拡大プロジェクト」において質問がございます。 ありがたい姿の枠に、「森林に近い小規模な畑等については、農業委員会において非農地となる。」とありますが、これの意味するところが分かりません。 これは、農地が減ってしまう原因のひとつとなるという意味でしょうか？ それとも、農業委員会が指定しなければ農地のままなので、そのままにしておきましょうということでしょうか？ →【農林水産課回答】 農業委員会が実施している農地パトロール等により農地としての機能を果たさなくなった畑等について、非農地とすることであり、結果として、農地(耕作放棄地)の総面積は減ることとなります。</p>
	1.02.1	地域に根差した産業を活性化し、「働く場」を確保する	商工観光課	<p>【橋本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉部門と連携して、障害者や生活困窮者向けの就職への導き、技術習得、自立支援相談の連携強化を実施するなどの取り組みを予定されているとの事、弱い立場の人にも目を向けていただけるのは非常に心強いと感じました。
	1.02.2	地域に根差した産業を活性化し、「働く場」を確保する	商工観光課	<p>【橋本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やはりアントラースホームタウンDMO、鹿行4市との連携は、多くの観光客を集めるのに必須かと思えます。単独で行うよりも広域で行った方が観光客も周遊でき魅力がアップする。鹿嶋市に民間のフラワーパークもできると聞いています。潮来市にはあじさいの二本松寺、あやめ園もあります。また鹿行5市には歴史ある神社仏閣も多いので、神社仏閣★花のコラボで花めぐりができるような観光地づくりはどうでしょうか？ ・特産品のイチゴなどは、メディアも注目しやすい農産物かと思えます。県庁でやっているようなスイーツフェスタのいちご版など実施するのも女性受け・メディア受けしやすい気がします。
	1.02.3	地域に根差した産業を活性化し、「働く場」を確保する	事業推進課	<p>【橋本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校跡地の活用にはどの自治体も頭を悩ませていると思います。 ・職業柄、夏休みになると「芝生のグラウンドが使える合宿地はないか」という遠方のサッカークラブなどから問い合わせが多いことを見聞きしています。鹿島、神栖で合宿をしながらなるべく多くのチームとサッカーの練習試合をしたいという目的から、こちらに合宿地を求める団体が多いです。 ・施設の充実は必須となりますが、そのような活用法もあるのではないのでしょうか。
健康で文化的なまちプロジェクト	2.01.1	日本一「元気で包容力のある地域」をつくる(健康寿命についての分析)	健康増進課	<p>【橋本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康ですごす時間を長く、そのためには健康に対する関心、行動を市民一人ひとりが高めることは必須です。 ・鹿島アントラースウェルネスプラザでは、ご希望の場所出張レッスンや健康指導も行っていきます。実際私がやってみて感動した健康指導は「In Body」という機械に乗るだけで、自分の体の水分、タンパク質、ミネラル、体脂肪のほか体の部位別の筋肉バランスや脂肪バランス、栄養評価(むくみ、タンパク質、ミネラル、脂肪量)メタボリックチェックが分かる装置です。こちらも出張できます。
住みやすい地域プロジェクト	3.01.2	住みやすい環境を整備する	介護福祉課 地域包括支援センター	<p>【橋本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が患った経験から、認知症サポーターの制度は非常に素晴らしいし、家族にとっても心強いと思いました。 ・認知症の方との接し方の講義を専門家の方から聞くことのできる講習会などを定期的実施するのもいいのではないのでしょうか？ ・施設、家族によってだと思えますが、まちがった接し方ういしてしまい、認知症の方本人にとってもつらい思いをさせてしまう場合もあります。 ・市報などで紹介するのもいいのではないかと思います。 ・当時の私の印象としては、施設の方の対応方法が千葉県に比べてあまり専門的でないと感じもどかしいことがありました。 ・eスポーツなども認知症予防に役立つとして、取り入れられている自治体があると聞きました。鹿島アントラースもeスポーツの担当部署があり、日本代表選手とも契約しています。

なめがた未来のまちづくり協議会委員 意見提出シートとりまとめ <<0706>>

プロジェクト	基本目標 実現シートNo.	基本目標	担当課	委員意見	
みんなで育むプロジェクト	4.01.2	子育てしやすい地域にする	健康増進課	<p>【羽鳥委員】 ママスマイル行方は、どれみが企画の事業がきっかけで結成されたママサークルです。この企画に参加し、同じ時間、活動、感動を共有したという「同じ土台」がベースとなっているためなのか、雰囲気の良いママたちが多いです。そのため、背伸びすることなく年齢も出身地も違うママたちが本音で交流し、繋がりを維持しています。今年で4年目に入りました。子どもの成長を共に分かち合えることで、母親同士のつながりが深まり、悩みを相談し合って解決の糸口を自分で見つけ出したり、自分もこういうことがあった、と自らの体験談を話すことでお互いを励まし合ったり、ということが、日々の子育ての支えの一つとなっています。</p> <p>「土台が同じ」ということがベースなので、メンバーを増やすことは考えていないのですが、我々が主催となって、何かイベント=他の母親たちとの交流ができれば良いと思っています。</p> <p>スタートはどれみでした。どれみの皆さんにはメンバー一同、とても感謝しています。この企画がなかったら、出会えなかったママ友もいたと思います。これからもどれみがいろいろな企画をしてくれることを楽しみにしています。行方市のママが笑顔=スマイルになります！</p> <p>【光畑委員】 この地域で子育てしたいと思う人の増加、KPIの実績値は地方としては高いだろう。</p>	
	4.01.11	新たな価値を創造し郷土と社会の未来を切り拓く人間の育成	生涯学習課	<p>【羽鳥委員】 小学校に於いて、行方市のICTは、宿題をする目的でタブレットを持ち帰り、活用する点に於いて進んでいるように思われます。ICTはこれからの時代には必要不可欠な技術であり、タブレットの活用は、ICTを使いこなす土台をつくるのに有用であると思うのと同時に、土日や夏休みの宿題をするのに使うことで、教員の働き方改革にもつながると思います。</p> <p>タブレット学習のメリットは、児童にあったペース、内容でできることで、例えばAIドリルなどを使えば、児童はその場で「できた！」という実感を積み重ねることが出来ます。また、英語の音声なども簡単にネイティブのものを聞くことが出来ます。</p> <p>また、ICTを使いこなすルールそのものを学ぶことにもつながります。</p> <p>姿勢を良くして使う⇒目がつかれないように 自宅のパソコンとは違う⇒学習として使うのでサイトの管理は学校や保護者がきちんと行う。児童もそれを理解し、守る タブレットが全てでなく、これまでも学習法もおろそかにしない ⇒記憶の定着については、紙媒体で読む、書くほうが良い場合もあるので、時間を決めてやるなど くり返しドリル、ちょっとした調べものなどに使う、など目的を決めて使う=ICTのいいところをする ことが大切かと思えます。</p> <p>せつかく一人一台用意して頂けたので、自宅でもなるべく使う機会を増やしてもらいたいです。学校に置きっぱなしでは、せつかくのツールが宝のもちぐされになってしまうと思います。</p>	
			生涯学習課	<p>【山口委員】 「みんなで育むプロジェクト」に関してご相談があります。</p> <p>郷土を理解する知ることが、生まれ育った地を愛する、住み続けたいと思うことにつながると考えます。</p> <p>「ありたい姿を実現するための主要な施策」の枠、主要施策名「社会全体で子どもたちの生きる力を育む」の施策概要の中に、郷土に誇りが持てる子どもを育てる教育の推進とあります。</p> <p>では、茨城県教育委員会が主催して中学校2年生が取り組む「いばらきっ子郷土検定」への各中学校の取り組み状況はいかがでしょう？</p> <p>先生の力の入れ具合によって、熱心に学校全体で積極的に取り組んでいる学校と、生徒自身がその検定を知らされていない学校も、県内には見受けられると聞きます。行方市内の3中学校の過去の取り組みの程度をお教え頂ければ幸いです。</p> <p>→【生涯学習課回答】 別紙いばらきっ子郷土検定の取組状況参照</p>	
			学校教育課	<p>【山口委員】 行方市はほぼほぼ参加しており、市町村によってはあまり取り組んでいない自治体があるなかで大変喜ばしい。子どもの郷土の教育には非常に関心があるし、その気持ちを持つということは大切なことであろうと考える。</p>	
			学校教育課	<p>【堀田委員】 いばらきっ子郷土検定の話で、取手市で県大会に行けないので講座の依頼を受け、2年生向けに必勝講座を行った。その年に県大会に行けた。気付きや働きかけで世代の関心の振れ幅が変わる。郷土の価値に気付いたりする。5年10年後にポジティブな効果が生まれるのではないだろうか。</p>	
			学校教育課	<p>【光畑委員】 一つ一つのパーツだけではなく、地域住民が「ありたい姿」を実現していく課題、一体となって育むことが重要であろうと思う。</p> <p>ハードをつくって解決していくというよりは、自然体で育もうと考えることが重要であろう。それを実現するための施策の決め手がないのが実情である。ボランティア活動を挙げているが、どう実現するかが課題。</p>	
			学校教育課		
	4.03.2	子どもを産みたい希望を叶え、住みたいまちをつくる	健康増進課	<p>【光畑委員】 成果指標の子育てしやすいと感じる人の割合の増加では、2018は57%と増えているが、2019は39.7となっている。想像ではあるが、課題として買い物や不便なことではないだろうか。どういう項目にするか、指標はよく見ていった方が良さそう。成果指標を図っていくうえで粒を小さくしたものを挙げていけばよいだろう。</p>	
	情報発信で日本一プロジェクト	5.01.1	全市民が情報発信源となり、情報発信日本一の市を目指す	事業推進課	<p>【木村委員】 「エリア放送を活用した情報発信と人材育成」 *先日「なめテレ」を拝見したが、アナウンサーの技術にばらつきがあるように思った。地元の方にインタビューするコーナーも多いので、インタビューの基本をアナウンサーに勉強いただけるような特別講座を、定期的開催することを今後も行っていくことを希望する。</p> <p>*SNS「なめがた日和」は、内容も面白くてキャッチーだと思う。私も良く拝見している。多少の遊び心はSNSでの発信が必要だと考える。「なめテレ」の公式Twitterも開設し、「なめテレ一期生」とは別に)番組の告知やお知らせ、出演者の紹介など「なめがた日和」のようなテイストで、発信して欲しい。</p> <p>【金田委員】 なめテレで近隣自治体の情報も提供いただいております。大変ありがたく思っている。JAなめがたしおさいでも甘藷以外のサツマイモのPRをさせてもらっており、発信する手段として助かっている。</p>
		5.01.2	全市民が情報発信源となり、情報発信日本一の市を目指す	政策推進室	<p>【木村委員】 *他メディアとのメディアミックスについて。茨城放送は7月1日からつくば局88.1MHzを開局し、県内の難聴地域も解消される。さらにradikoで東京をはじめとする1都6県での無料聴取も可能になった。これらのメリットを生かし、地元メディアと更なるタッグを組んで、行方の魅力を県内外に発信していくコンテンツを生み出すことを期待する。</p>

なめがた未来のまちづくり協議会委員 意見提出シートとりまとめ <<0706>>

プロジェクト	基本目標 実現シートNo.	基本目標	担当課	委員意見
	その他(自由記述)			<p>【橋本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康・観光を一体化した施設を誘致するのでしょうか？ 働く場の拡大も期待できます。 「健康で長生きできる街づくり 鹿行に来ると5歳寿命が延びる！」 健康を取り戻すことをテーマにした宿泊施設をつくる 国内:千葉県長生郡のソルの森という施設がありました。 https://www.seimei-no-mori.com/ 海外:フィリピンの健康施設 ザ ファーム (古館伊知郎が利用したことで注目) https://www.je-web.net/thefarm/ 医療の充実 国立病院、私立病院を誘致 医療は医師の少なさも問題だが、安心して大きな難しい手術が受けられ、レベルの高い看護が受けられる病院が鹿行地区には必要。旭市の国立旭中央病院レベルの病院があれば、病院を中心とした街づくりの可能性もあるのでは。 また、東京から同じ2時間の距離の千葉県の亀田病院があります。行方市の場合は成田空港も近いので海外の富裕層もターゲットにし最新機器と優秀な医師を揃えて、医療大学、看護学校、東洋医学系学校なども併設しながら患者を集めれば、地域の人々にも高度な医療が還元され、また学生を集めることによっても地域の賑わいも生まれるのでは？と考えました。 亀田病院 http://www.kameda.com/ja/general/ <p>【堀田委員】</p> <p>近い将来のSociety5.0社会の到来と、コロナ禍の影響により、地域のあり方や、市民や産業界から求められる行政の役割も変質しつつあると考えています。時代の先は読みづらく、政府がSociety5.0と言っているが、行方市で先駆的にできるようなものを指標として入れていただくようなアプローチもあるとよいのではないだろうか。市の若い世代や、過ごしていく人が長い人にも先駆的に進められるのではないだろうか。 そのような社会の変容を前提としたときに、目標実現のための施策が妥当なのか、KPIを変更する必要はないのか、検討する視点もあってよいのではないかと思います。</p>